

門出に想う

本校でも3月1日に、神奈川県立横浜清陵高等学校として第1回卒業式が行われます。皆さんは、幼稚園の卒園式、小学校・中学校の卒業式を覚えていますか。筆者自身は、歳の所為かも知れませんが卒園式、卒業式を覚えていません。心に残る卒業式というのを演出することは、なかなか難しいことだと思っています。いや、私は卒業式こそ、巣立っていくときの生徒自身の気持ち次第で記憶に残るのか、残らないのかにかかっていると思います。

卒業式は人生の節目、門出を意味します。門出に相応しい名言は数多くありますが、私はエラ・ウィーラー・ウィルコックスの詩を贈りたいと思います。彼女は19世紀の1859年11月5日、アメリカのウィスコンシン州で生まれ、1919年10月30日に癌で死去した作家、詩人です。彼女を知る機会、何か英語の教科書か、参考書に載っていたので知ったのです。彼女の不朽の名作といわれているのが「貴方が笑えば、世界は貴方と共に笑う。貴方が泣くとき、貴方は一人で泣く。」という詩が『Solitude』（孤独）にあります。また、彼女の詩のなかで門出に際しての名言は次のものがあります。

ある船は東に行き、別の船は西に行く
吹いている風は全く同じに
それが一組の帆であり
風ではない
それが行く先を告げてくれる
海の風のように運命の行方がある
人生を旅していくように
それが一組の魂であり
それが行く先を決める
静かでもなく争いでもない

『The Winds of Fate』（運命の風）より

皆さんは、この清陵高校で学び、同じ高校生活を送っています。しかし、いつかこの地から旅立つこととなります。3年次生は今日、2年次生は来年、1年次生は再来年に旅立っていきます。進路を決めるのは風でなく、帆の向きです。帆の向きを決めるのは貴方たちの魂＝心なのです。

卒業式を忘却せず、記憶に留めるには、皆さんの心であり、皆さんの日々の生活にかかっているのだと思います。一組の魂の持ち方、あり方が大切なのでしょう。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが、この地で3年間学び、今日を迎えたことに、教職員を代表して心から祝意を述べさせていただきます。

また、今日まで皆さんを支えてくれた保護者の皆さんに、祝意を述べると共に、本校の教育活動にご理解、ご支援をいただき、心から御礼を申し上げます。

さらに本卒業式を挙げるにあたり、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様には、ご多忙のなか、お祝いに駆けつけていただき誠にありがとうございます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、皆さんが通った本校にはソメイヨシノの桜の木が植わっています。この桜は1926(大正15)年に、この地に移転してきた横浜高等商業学校の時代に植わったものです。90年にも及び、この地で学生、生徒を見続けています。この地でなぜ、学校が建てられたのでしょうか。大正時代、貿易で栄えた横浜の地に高等商業学校を設立することが決まり、1924(大正13)年に開校予定でした。しかし、1923(大正12)年9月に関東大震災が起り、復興のシンボルとして同年12月に急遽横浜高等商業学校は設置することになりました。そのため設置後に正式な校地を探すことになり、この地が選ばれ1926(大正15)年に移転したのです。この地が選ばれたのは、関東大震災級の地震があっても、校舎が倒壊しない土地ということで選ばれたのです。この地は90年に渡って横浜高等商業学校、横浜国立大学、清水ヶ丘高等学校、横浜清陵総合高等学校、横浜清陵高等学校の生徒、学生が、この桜樹の下をくぐってきたのです。

皆さんは、平成27年4月に横浜清陵総合高等学校第12期生として入学し、今日平成30年3月1日横浜清陵高等学校第1回生として卒業していきます。校長は、平成29年4月からの新校への改編にあたって、総合高校のよいものを引き継ごうとしました。校名、校歌、校章、制服、体操着など、変更を最小限に留めることができたと思っています。それは横浜清陵総合高等学校が誕生した事によって、清水ヶ丘高等学校と大岡高等学校の卒業生が味わった母校の喪失感を、私は貴方たちに味わせたくなかったことにほかなりません。

校長の私は、皆さんより先に朽ちていきます。しかし、この学び舎は永遠に聳えるために、この地が選ばれたのです。この地で永遠に高校生が桜樹を潜ってほしいと思って職務に当たっています。皆さんは、今日この地から巣立っていきますが、「横浜清陵」という伝統、ブランドを創りあげるのは、横浜清陵総合高等学校の第12期生として入学し、横浜清陵高等学校の第1回生として卒業していく貴方たちです。貴方たちが第1回生として自らの新しい道で励み、各界で活躍することが、「横浜清陵」という伝統、ブランドを創りあげていく先導者になるのです。それを後輩たちが続いて歩むことになるのです。

卒業後、偶には、この地を振り返ってください。私の経験では、「同級生(同窓生)同士で結婚するのでビデオレターを撮りたいのですが」とか、「同窓会の前に、久しぶりに母校を訪れたいのですが」というような問い合わせを、何度と受けて対応してきました。貴方たちが同じような願い出をすれば、きっと母校は受けいれます。そのとき、学び舎は聳え立っていると、私は信じています。

最後に、皆さんと過ごした3年間を振り返って、横浜清陵高等学校として更なる学校づくりに、今後も精進してまいります。皆さん、本当にありがとうございました。心から皆さんのご活躍を祈念しまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。